

福島県男女共生センター広報誌

Public relations magazine
MIRAIKAN NEWS

未来館 NEWS

2021
SPRING
77/78
合併号

特集 1

開館20周年、東日本大震災から10年。
未来館NEWSを振り返る

特集 2

福島県男女共生センター「女と男の未来館」20年のあゆみ

開館20周年、東日本大震災から10年。
未来館NEWSを振り返る

当センターは平成13年1月18日に開館し、今年で20周年。そして、平成23年3月11日に発生した東日本大震災及び福島第一原子力発電所発電所事故(以下:震災)から10年の節目の年です。

これまで、広報誌「未来館NEWS」は、県内の男女共同参画に関する情報を伝えてきました。今回は、震災後、支援活動を紹介させていただいた団体のその後の活動についてそれぞれお話を伺いました。

おしゃべりカフェ「コスモス」

未来館NEWS臨時版Vol.3に活動内容を掲載(2012年2月発行)

概要 いわきふれあいサポート(令和元年5月NPO法人化)は、平成14年度の設定以来、DVなどの人権侵害を受けている女性たちの支援を行ってきました。東日本大震災後、いわき市には多くの方が避難してきました。避難者の方たちの中にも、DVや避難所で暴力を受けたという話を耳にしたため、そういった方たちが、話をする場所として、平成23年10月からおしゃべりカフェ「コスモス」(以下:カフェ)を仮設住宅の近くの公民館で始めました。

カフェは、月1回、約2時間。歌や手芸、簡単なストレッチなど様々なお楽しみ企画を行った後、お茶とお菓子を囲んで和やかな雰囲気、楽しいおしゃべりの時間を過ごします。

取材後のおしゃべりカフェ「コスモス」の活動について

平成23年10月にカフェを始めてから順調に月1回実施し、令和2年12月で111回になりました。平成24年4月からは広域のいわき市で集まりやすいいわき市文化センターを会場に、約2時間、お楽しみ企画とお茶を飲みながら、いろいろな思いを話せる場として、毎回15名ぐらいが参加していました。平成28年から文化センターが耐震工事に入ったため、市内の集会所を借りて、半年ごとにチラシでお知らせして、カフェを行っています。当初は、避難者の方も参加していましたが、自宅に戻られたり、新しい生活を始められたりして、徐々に減り、現在は市民の方が参加しています。新型コロナウイルスの影響で、昨年の3~9月まではカフェをお休みしていましたが、公民館等の活動が再開したことから、10月から感染対策をした上で再開しました。

現在まで活動を継続していると思うこと

あつという間の10年でした。第1回目は参加者がいなくて、これからどうしようかと思っていましたが、徐々に参加者が増え、このカフェを楽しみにしてくださっている方と一緒に継続して開催することができました。カフェを始めた頃、企画実施の講師謝金に充てていた助成事業が縮小してしまい、今では自分たちでお楽しみ企画のアイデアを出し合い、頭を悩ませながら実施してきました。長期にわたり運営してきたことは大変でしたがスタッフにとっては楽しい時間でもありました。おしゃべりの時間は、初めて参加した方でも話しやすいように、テーマを決めて話しています。ここで聞いたことは外に持ち出さないことや傾聴をすることなど、ルールを決めて安心して楽しくおしゃべりできる会にしています。

今後の活動について

当団体が支援をしているDV等の被害を受けている女性たちは地域の中で孤立しがちです。このカフェには、そういった女性たちが地域とつながるきっかけになればという思いもあり、これからも続けていきたいと思っています。新型コロナウイルスの影響もあり、再開後の参加者は少なくなりましたが、地域の中で女性たちの居場所づくりという目的を大切に活動していきたいです。

おしゃべりカフェ「コスモス」

開催日時: 第1水曜日、13:30~15:30
場所: 平26区集会所(耐震工事完了後、いわき市文化センターに変更予定)

NPO法人いわきふれあいサポート
電話/FAX: 0246-21-7235

※困難を抱えている女性たちの支援をしているこちらの団体では、活動を継続していくため、会員や寄付を募っています。詳しくは上記まで。



カフェの様子

○ふくしま女性支援センター（現：ふくしま総合相談支援センター）

未来館NEWS44号に活動内容を掲載（2012年2月発行）

概要

ふくしま女性支援センターは、東日本大震災（以下：震災）時にビッグパレットふくしまに設置された避難所内の女性専用スペースの運営に係ったNPO法人しんぐるまざあす・ふぉーらむ・福島が、避難所閉鎖後、女性たちが気軽に集まる場所を作ろうと思ったのがきっかけで開設されました。

主に、手仕事ワークショップとおしゃべり茶話会を行っており、針と糸を動かしながら話も弾み、楽しく活動しています。参加者は、避難者に限定せず、郡山市民との交流の場にもなっていました。

また、全国各地から福島の女性たちが作った作品を提供して欲しいという依頼もあり、支援いただいた毛糸や着物を材料にエコたわしや布ぞうりなどを作成し、販売していました。



●取材後の「ふくしま女性支援センター」の活動について

平成24年6月に開設した「ふくしま女性支援センター」は、その後、支援対象が女性のみではなくなったため、平成25年度から「ふくしま総合相談支援センター（以下：センター）」と名称を変更し、避難者支援活動を継続して行っています。

活動としては、手仕事ワークショップを年に数回行っています。主に、郡山在住の避難者の方を対象に支援をしていますが、交流の場としての役割も担っているため、郡山市民の方も参加しています。会場はセンターだけではなく、富岡町復興住宅や同町で実施しているカフェ（集会所）等に出張して行くこともあり、先日はお正月飾りを制作しました。震災後、県内外から様々な団体が支援に入りましたが、年を追うごとに減り、その影響からか、センターに参加者が集まるようになりました。しかし、現在は新型コロナウイルスの影響で参加者を制限したり、開催を中止せざるを得ない状況です。

もう一つの活動は農作業です。手仕事ワークショップの参加者から要望があり、平成25年に始めました。こちらは避難者の方が対象で、月2回、約15名が参加し、郡山市社会福祉協議会（以下、社協）のバスを借り、猪苗代町に借りている畑で1時間半農作業を行っています。収穫した野菜は、富岡町や郡山市社協を通して、たくさんの方々におすそ分けすることもあり、皆さんに喜んでいただいています。こちらにも新型コロナウイルスの影響でバスに乗車する人数を制限し、対策した上で実施しています。

●現在まで活動を継続していると思うこと

あつという間の10年でした。無我夢中で活動してきました。

その中で、一番良かったことは避難市町村の社協と連携を取り合い、支え合って活動を今日まで継続できたことです。特に、富岡町社協の御協力がなかったら活動できなかったと思います。同様に郡山市社協や福島県の支援をいただき、前例のない支援活動を行うことができました。

また、宮城学院女子大学の畑山みさ子教授が支援者となってくださり、「支援者の心のケアが一番大事」だと励ましてくださいました。支援活動をする上で、支援者の心のケアの大切さに気付くことができました。

このセンターは様々な方に支えられ、みんなで作ってきたからこそ、10年も続いたのだと思います。

●今後の活動について

震災から10年となりますが、避難されてきた方たちの状況は様々で、今も決してよくなったわけではないと思います。深く傷ついた心を元に戻すには時間がかかります。誰かが寄り添って、見守り活動を続けていくことが大事で、これからもみんなで支え合って、「ここがあってよかった。」と喜んでくださる声を心の支えに、現在の活動を続けていきたいと思っています。



当団体の事務所にて手仕事講座



農作業体験

ふくしま総合相談支援センター

郡山市安積町荒井字方八丁65-1山口ビル 電話/FAX:024-983-8360

○会津助産師の家 おひさま

未来館NEWS45号に活動内容を掲載（2013年1月発行）

概要

「会津助産師の家 おひさま」は、東日本大震災後、福島県の助成や東京都助産師会の支援を受け、産後間もない母親と赤ちゃんが、安心して過ごせる場所として、県内で放射線量が低かった会津若松市に平成23年8月に一般社団法人福島県助産師会（以下：県助産師会）の事業として開設されました。

当初は、県内各地域で活動していた助産師会の会員10名くらいが交代で24時間生活を共にしながら、産後の母子を受入れていました。人生の先輩として昔から受け継がれてきた大切なことを伝え、日常生活にスムーズに戻れるように支援しました。また、母親同士の交流の場にもなっており、お互いに話をする事で不安も解消され、日に日に母親の顔が変わり、退所するときには大きく成長しているのがわかりました。

その他、母乳に関する相談やケア、子育てや女性の健康に関する相談、母乳検査受付窓口も行っていました。

●取材後の「会津助産師の家 おひさま（以下：おひさま）」の活動について

平成23年8月に会津若松市で開所し、平成24年12月から現在の場所（猪苗代町）に移り、宿泊型・日帰り型産後ケア、来所型ケア、電話相談（24時間対応）、子育てやお産に関する教室、産前産後の家庭訪問を行ってきました。平成29年度以降は産後ケア事業が県から市町村の事業になったため、県助産師会から個人の事業として継続してきました。

その他、会津地域のフリーペーパーに子育てに関するコラムを書いたり、幼稚園や学校への性教育の出張授業なども行ったりしています。

現在は、新型コロナウイルスの影響で子育てやお産に関する教室が開催できない状況です。産後のお母さんたちが家に引きこもりがちになっていて、孤立してしまうことが心配です。

●現在まで活動を継続していると思うこと

平成23年～令和元年まで、宿泊型・日帰り型産後ケアは、451組が利用しました。産後すぐ入所する方もいれば、産後1、2カ月経ってうつ状態になって家族に連れてこられる方、実家が遠く育児協力を得られない方など様々な方が利用します。

開所した時は震災直後だったこともあり、不安やストレスでうつ状態になる方も多かったと思いますが、10年経っても子育ての仕方が変わったり、核家族や少子化の影響があるのか、お母さんたちは大きな不安やストレスを感じているようです。

今はスマートフォンで何でも簡単に調べられますが、間違った情報や個人の見解を信じてしまい、特に乳房トラブルで相談に来る方が多いです。また、宿泊型ケアを利用しているスマートフォンを見ている時間が長く、宿泊する母親同士の交流が少なくなっていると感じています。

●今後の活動について

開所から助産師の専門性を活かし産後ケアに取り組んできましたが、まだまだ、産後ケアを知らない妊婦さんがたくさんいます。産後ケアは特別な人だけが利用するものではなく、赤ちゃんとの生活をしていくための準備や産後うつ、育児ノイローゼなどの予防にもなります。また、母親自身の心身のリフレッシュのための利用も可能です。

各市町村によって違いますが、申請すれば助成が受けられ、低料金で産後ケアを受けることができますので、ぜひ、たくさんの方に利用してほしいと思います。そのために、もっと産後ケアを知ってもらうための活動を頑張っていきたいと考えています。

会津助産師の家 おひさま

猪苗代町大字三ツ和字家北752-1 電話/FAX:0242-85-8303 URL:https://ohisama.ebb.jp/



お話を伺った二瓶さん

このたび20周年を皆様とともに迎えることができました。これも、開館から今日まで、多くの皆様のご支援ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

当センターは全国にある355のセンターの中では決して早いほうではありませんが、日本から5千人余りが参加した1995年の北京世界会議・NGOフォーラムを経て、男女共同参画社会基本法の制定・施行されてまもなく(1999年)、ジェンダー平等をめざす市民運動のうねりが高まりをみせるまさにそうした時期に当センターは開館いたしました。

前半の10年は、前下村館長のもとで著名人による講演や国際シンポジウムをはじめとする多彩な事業を実施し、男女共同参画を実現するための方策や国内外の先駆的な取り組みについての情報や視点を提供する拠点としての役割を果たしました。前館長の後を引き継いだ私のすべきことは10年間の実績の上でいっそう地域に根ざしたセンターにすることでした。ところが、今後の計画を立てていた矢先に東日本大震災・原発事故が発災し、2011年度は全ての事業の見直しを余儀なくされました。人権を守る拠点施設として被災者のために果たすべき役割とは何か、正解が見えないなか手探りで前進でした。

そのような中、5月連休明けには、県内最大の避難所であったビッグパレットに派遣されていた県庁避難所運営支援チームと連携し、女性が安心できる部屋として「女性専用スペース」を設けることができました。この取り組みが6月に開催された学術会議主催の「災害・復興と男女共同参画6.11シンポジウム」で「女性の視点・ニーズを反映した避難所運営のモデル」として取り上げられたことは忘れることができません。また、「震災」をジェンダーの視点で多面的に読み解こうと、現場の最前線で活動する方々や被災当事者を講師に迎え、福島大学との連携講座「ジェンダーを考える」を2011年および2012年前期の授業で実施しましたが、学生300人、一般市民120人超が受講し、講師の方々の迫力に圧倒されながらも「生きた知」を学びとろうとする真剣な眼差しが今でも鮮明に思い出されます。被災者支援活動では女性団体も面目躍如の働きぶりを見せました。何よりも胸を打たれたのは、被災当事者の奮闘です。とくに「ふるさとの味を残したい」と立ち上がった女性たちのエンパワメントは目を見張るものがありました。

こうした震災後の福島の取組と姿を発信し続けることは私たちの大きな役割だと捉え、北は北海道から西は大阪まで、講演やシンポジウム等の機会があれば出かけてきました。一昨年はクレオ大阪の講座に招かれ、福島から避難している方々と意見交流ができたことは貴重な体験でした。

震災後の福島から見えてくるのは、女性たちが実践力を蓄え、少しずつですが着実に地域社会に影響を及ぼしていることです。とはいえ、男女の不平等や性差別の課題は依然として残されているのも事実です。

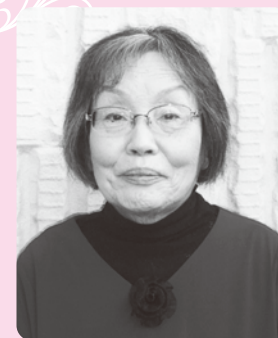
地域の男女共同参画推進拠点施設として、いっそう励んでまいります。これからの福島の未来のために、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

福島県男女共生センター館長 千葉悦子



福島県男女共生センター「女と男の未来館」は、令和3年1月に開館20周年を迎えることができました。

予定しておりました20周年記念事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により次年度に開催を延期します。今回は、日頃、未来館の運営・活動を支えてくださっている方々からメッセージをいただきましたので、ご紹介します。



二本松婦人団体連合会
会長
石川 美知 さん

近景に二本松城址、遠景に安達太良山の望める福島県男女共生センター「女と男の未来館」が本年度で開館20周年を迎えたこと誠にありがとうございます。

センターは開館以来、私たち地元婦人団体はもとより一般市民団体や、個人に至るまで本来の目的達成のため、事業等に気軽に利用させて頂いておりますことに対し、厚く御礼を申し上げます。

また、センターで毎年実施されておりました未来館フェスティバルでは、来館者の皆様にそうめん等を振る舞う「大盤振る舞い」に協力でき、好評をいただいていたことなど、懐かしく思い出します。

今後、社会の変化に対応し、男女共に研鑽し、所期の目標を達成発展されることを御祈念申し上げます。



福島大学
教授
坂本 恵 さん
(当センターアドバイザー)

センターの20年に及ぶ歴史は、両性の間に横たわる旧来の目に見えない壁に挑み続けた歴史でした。建築家榎文彦氏の手による「女と男の未来館」の斬新なガラス張りの館内にたたずむと、いつでも外の光を浴び、季節の変化をいち早く感じることができ、そこに集い、働く人々を暖かく包み込んでくれました。同時に、社会の変化をいち早く取り込み、その成果を持って外に働きかけ、変化を生み出すことを促してきました。20年にわたるセンターの国内外にいたる多彩な歴史は、晴れの日も雨の日も、どんなに厳しい寒風の折にも、いつも私たちを守り育ててくれるものでした。

心からの感謝を込めて、未来に向けて、ともに新たな挑戦の10年に歩み出しましょう。



福島県生活環境部男女共生課 課長 山ノ内 誠 さん

福島県男女共生センターは、開館から20年を迎えました。日頃から施設運営や各種事業に関わっていただいている関係の皆様及び県民の皆様には、心から感謝申し上げます。

この間、県では東日本大震災と原子力災害の教訓を踏まえた復興・防災と男女共同参画の推進や女性が活躍できる環境づくり、働き方改革の推進など、「ふくしま男女共同参画プラン」に基づき、各種施策を積極的に展開してまいりました。

今後も、震災からの復興、ウィズコロナといった社会・経済状況の変化に対応しながら、男女共生センターを男女共同参画推進の拠点施設として、男女を問わず持てる力を存分に発揮し活躍できる社会の実現に、より一層取組を進めてまいりますので、引き続き、県民の皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



「散歩道」図書より 作成スタッフ 田崎 由子 さん

未来館誕生20周年おめでとうございます。私は未来館のボランティア活動や男女共同参画に係われたことがとても嬉しいです。きっかけは、ボランティア養成講座を受けたことでした。図書だより「散歩道」の名称もみんなで考え、年4回のペースで作成し、令和3年3月には第80号を発行します。毎回テーマを決めて、関連する図書を読み、内容や感想などを紹介してきました。図書室には、紹介した本のコーナーがあり、本を手に取り見ていただくことができます。20年間続けられたのは、職員の方々や仲間との楽しいおしゃべりは勿論のこと、それぞれの経験やアドバイスを聞くことができたからだと感じています。

未来館が今後も一層発展し、県民から愛されることを願っています。



元福島県女性団体連絡協議会 会長 山崎 捷子 さん

共生センターのオープニングの日は雪が降っていました。あれから20年ですね。おめでとうございます。20年間で私が印象残っているのは2010年に国連女性差別撤廃委員会委員でクローチアのドゥブラヴカ・シモノビッチ氏をお招きしたことです。

前年の2009年、日本の女性差別撤廃条約の進捗状況が論議されるレポート審議、総括所見、フォローアップがあり、私はNGOとして参加し、国連ビルの中におりました。

その時にシモノビッチ氏の招聘の話があり、東北は福島県男女共生センターでぜひ講演会を開催すると名乗り出たのです。そして、全国5か所の講演会場の一つになり、2010年の未来館フェスティバルのシンポジウムとしてご講演いただきました。

その日は、国連女性差別撤廃委員会委員で昨年「世界で活躍した100人の女性」に選ばれた、センターのアドバイザー(当時)林陽子氏もシンポジウムに加わっていただき、忘れられない充実した会になりました。

福島県男女共生センター「女と男の未来館」20年のあゆみ

当センターで実施してきた事業の一部を紹介します

年度	事業名	開催日・内容
12 2000	開館記念事業(オープニングイベント)	H13/1/18(木)~1/20(土) ●トーク&トーク 「男女共生センターのこれから」 船橋 邦子氏(大阪女子大学教授) 佐藤 栄佐久福島県知事 下村 満子館長 ●記念講演 「女と男のこれから~女性2000年会議から見えるもの」 樋口 恵子氏(東京家政大学教授) 他
13 2001	男女共生講演会	H13/10/6(土) ●講演 「日本政治の行方と男女の未来 ~激動の21世紀をどう生き抜くか~」 筑紫 哲也氏 (ジャーナリスト)
14 2002	未来館フェスティバル	H15/3/1(土)~3/2(日) ●トーク&トーク 「生き生き社会は「食」と共に」 小泉 武夫氏 (東京農学大学教授) 下村 満子館長 ●未来館コンサート&トークショー<スワンシスターズ&ゲストボーイズ> 湯川 れい子氏 (音楽評論家) 松本 礼児氏 (作詞家・歌手) 細川 佳代子氏 (NPO法人スペシャルオリンピックス日本理事長) 小田 啓義氏 (ブルー・コメッツボーカリスト) 幸田 シャーミン氏 (ジャーナリスト) 下村 満子館長
17 2005	開館5周年記念事業(未来館フェスティバル)	H17/10/2(日) ●シンポジウム 「国際結婚我が家の事情」 ルーシー・クラフト氏 (フリーランスライター) ちよん・ひょんしる氏 (ふくかんねっと代表) スベンドリニ・カクチ氏 ミエダナ・メタニ氏 (主婦) (インター・プレス・サービス東京特派員) ジュローム・クヴァジェ氏 (ACEランゲージスクール経営)
	開館5周年記念事業(未来館フェスティバル)	H18/2/5(日) ●基調講演&パネルディスカッション 「男女共生ふくしまサミット~トップからの熱烈アピール~」 猪口 邦子氏 (内閣府特命担当大臣(少子化・男女共同参画)) 堂本 暎子千葉県知事 片山 善博鳥取県知事 名取 はにわ内閣府男女共同参画局長 佐藤 栄佐久福島県知事 下村 満子館長
19 2007	未来館国際シンポジウム	H20/3/15(土) ●シンポジウム 「世界の“大使が語る、日本の今”~もっと知ろう世界のこと、日本のこと~」 〈アイスランド共和国〉 特命全権大使 トーヅル・アイギル・オスカーソン閣下 〈シンガポール共和国〉 特命全権大使 タン・チンティオン閣下 〈ウルグアイ東方共和国〉 特命全権大使 アナ・マリア・エステベス閣下 〈モデレーター〉 下村 満子館長 ※各大使講話後、討論
21 2009	未来館誕生10周年記念事業(第2弾) 「おんなんて何?おとこって何?」	H22/3/13(土) ●講演 「どうちがう?オスとメス、男と女」 長谷川 眞理子氏 (生物学者・総合研究大学院大学教授) ●講演 「“婚活”から見えてくる、現代のワカモノ事情」 山田 昌弘氏 (社会学者・中央大学教授)

※役職名等は、イベント開催当時のものですので、ご了承ください。

福島県男女共生センター「女と男の未来館」20年のあゆみ

年度	事業名	開催日・内容
22 2010	未来館フォーラム (未来館誕生10年記念事業第5弾)	H22/7/22(木) ●講演 「千葉新館長が語る“未来館のこれから”」 千葉 悦子館長
	未来館フェスティバル (未来館誕生10年記念事業第6弾)	H22/9/4(土)、5(日) ●シンポライト 国連女性差別撤廃委員会シモノヴィッチ委員講演会&シンポジウム ドゥブラヴカ・シモノヴィッチ氏 (国連女性差別撤廃委員会委員) 〈パネリスト〉 ドゥブラヴカ・シモノヴィッチ氏 (国連女性差別撤廃委員会委員) 林 陽子氏 (国際弁護士、国連女性差別撤廃委員会委員) 〈コーディネーター〉 山下 泰子氏 (文京学院大学名誉教授、国際女性の地位協会会長)
	未来館誕生10年記念事業(第10弾)	H23/1/22(土) ●山崎大地さんスペシャル講演会 「宇宙主夫。妻と娘と夢を追いかけて」 山崎 大地氏
23 2011	男女共同参画基礎講座	H23/5/13(金)~7/22日(金) 全11回 ●連続講座 「私のムラづくり実践～飯館村からの報告～」 佐野 ハツノ氏 (飯館村・民宿経営) 「ジャーナリストが見た被災地～ジェンダーの視点から～」 藍原 寛子氏 (ジャーナリスト) 「防災・災害復興と女性～新潟県中越大地震から見たこと～」 大島 照美子氏 ((財)新潟県女性財団理事長) 「助産師と一緒に性 いのちについて語りませんか」 宗形 初枝氏 (リプロダクティブ・ヘルスの会代表) 「ジェンダーとセクシュアリティの問題をめぐって～私の個人的体験と問題意識から～」 遠藤 恵氏 (NPO法人市民メディア・イコール理事長) 他
	健康セミナー	H23/10/1(土) ●講座 「女性と子どものための“放射線と健康”セミナー～「フクシマ」で安心して暮らしていくために～」 蜂谷 みさを氏 (独立行政法人放射線医学総合研究所緊急被ばく医療研究センター運営企画ユニット企画・研究推進室室長) ●茶話会 (社)国際女性教育振興会福島県支部
	未来館キッズクラブ	H24/1/7(土)、8(日) ●講座 「未来館探検」 ※福島県生涯学習課との共催事業、「詩の寺子屋」事業
24 2012	未来塾「女子“防災”カUPセミナー」	H24/10/13(土)~11/4(日) 全7回 ●連続講座 「女性×男性の視点で総合防災力アップ」 浅野 幸子氏 (東京女子大学非常勤講師) 「協働のための提案力を磨こう」 ※日本女性学習財団とのコラボレーションセミナー 服部 篤子氏 (CAC-社会起業家研究ネットワーク代表) 「自己尊重・自己主張トレーニング～いざという時にこそ“ガマン”しない女子でよう！」 丹羽 麻子氏 (女性の自立を応援する会) 「シミュレーション～未来館が避難所になったら？」 天野 和彦氏 (福島大学つくしまふくしま未来支援センター特任准教授) 北村 育美氏 (中越防災安全推進機構、現おだがいさまセンター派遣) 他

※役職名等は、イベント開催当時のものですので、ご了承ください。

年度	事業名	開催日・内容
24 2012	未来館トークサロン	①H24/10/30(火)、②11/1(木) ●千葉館長と県民とのトーク ①郡山市、②福島市
	未来館フェスティバル	H24/11/23(金)、24(土) ●シンポライト講演&トークセッション 「災害と男女共同参画」 堂本 暁子氏 (前千葉県知事、男女共同参画と災害・復興ネットワーク代表) 「ふくしま再生のカギ」 藻谷 浩介氏 (日本総合研究所調査部主席研究員) ●トークセッション 堂本 暁子氏 藻谷 浩介氏 千葉 悦子館長
25 2013	東日本大震災父子家庭+父親支援プロジェクト ～お父さん支援員のための研修会	H25/6/19(水) ●講座 坂本 純子氏 (NPO法人新座子育てネットワーク代表理事) 佐野 育子氏 (NPO法人新座子育てネットワーク) ※公益財団法人日本ユニセフ協会、 NPO法人新座子育てネットワークとの協働事業
	未来館フェスティバル	H25/9/7(土)、8(日) ●シンポライト 「ふくしま 土と生きる人々と出会って」 大石 芳野氏 (写真家)
26 2014	女性のチャレンジ応援講座	H26/2/26(水)、H26/3/3(月) ●講演 「活動を継続するヒント」 石山 純恵氏 ((株)クリフ代表取締役) ●講座 「広報・展示・企画力アップ研修」 川村 洋一氏 (POPセンター福島代表、お店づくり講師) ●講話 「これまでの活動を振り返って」 渡邊 とみ子氏 (かーちゃんのカ・プロジェクト協議会代表)
	未来館フェスティバル	H26/9/20(土)、21(日) ●シンポライト 映画「母の道、娘の選択」上映&我謝京子監督トーク 我謝 京子氏 (ドキュメンタリー映画監督、ライター・ニュースアンカー)
	公募型研究事業報告会	H26/10/12(日) ●報告会 「3.11後の支援者同士のネットワーク構築と学びあうコミュニティの形成 ～復興支援ラウンドテーブルからふくしまの未来を考える」 研究代表者 村田 晶子氏 (早稲田大学文学学術院教授) 他

※役職名等は、イベント開催当時のものですので、ご了承ください。

福島県男女共生センター「女と男の未来館」20年のあゆみ

年度	事業名	開催日・内容
26 2014	復興・防災と男女共同参画	H26/11/6(木)、12/17(水)、H27/1/23(金) ●講座 11/6(木) 仮設・借上住宅等におけるDV被害者支援に資する講義 丹羽 雅代氏 (減災と男女共同参画研修推進センター、NPOアジア女性資料センター代表理事) 12/17(水)、H27/1/23(金) 実践事例による、復興・防災と男女共同参画に関する基礎知識を学ぶ講義 等 浅野 幸子氏 (減災と男女共同参画研修推進センター共同代表)
27 2015	未来館フェスティバル	H27/9/5(土)、6(日) ●シンポルイベント 「真の“女性活躍社会”をつくるための処方箋」 上野 千鶴子氏 (社会学者、東京大学名誉教授、 NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長)
	男女共生次世代交流会	H27/10/31(土) ●基調講演 「男女共同参画とキャリア形成」 今泉 理絵氏 (福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任助教) ●事例発表 「女性の活躍推進の取組」 鈴木 岳伯氏 ((株)福島銀行組織開発部長)
	未来館健康講座	H27/11/21(土) ●講座 「乳がんを知る。検診に行く。」 片方 直人氏 (公益財団法人星総合病院外科統括部長)
28 2016	未来館フェスティバル	H28/9/10(土)、11(日) ●シンポルイベント 「『居場所』のない男、『時間』がない女～生きにくい世の中を変えるために～」 水無田 気流氏 (詩人・社会学者、國學院大學経済学部教授)
	女性への暴力防止啓発事業	H28/11/12(土) ●講演 「スマホ・SNSと性暴力。 女の子たちの生きづらさを、共に考える。」 橋 ジュン氏 (NPO法人BONDプロジェクト代表)
	男女共生を進めるための住民力向上事業	H29/1/27(金) ●講演 「人気雑誌副編集長が伝授、女性のニーズはこうつかむ」 井崎 彩氏 (文藝春秋『CREA』副編集長、元週刊文春Woman編集長)
29 2017	未来館フェスティバル	H29/9/2(土)、3(日) ●シンポルイベント 「自分をすり減らさない『ほどほど』の生き方」 深澤 真紀氏 (コラムニスト、コメンテーター)
	イクボス養成講座	H29/10/17(火)、19(木) ●講演 「イクボス経営のすすめ」 横田 智史氏 ((株)ペンギンエデュケーション代表取締役、NPO法人ファザーリング・ジャパン東北代表理事) ●事例発表 北浦 典子氏 (株)福島人材派遣センター郡山支社長 高橋 理里子氏 (株)トーネットキャリア開発事業部長)

※役職名等は、イベント開催当時のものですので、ご了承ください。

年度	事業名	開催日・内容
29 2017	第61回全国女性会館協議会全国大会in福島	H29/12/2(土)、3(日) ●基調講演&パネルディスカッション 「災害・復興と福島の女性たちの今」 千葉 悦子館長 〈パネリスト〉 苅米 照子氏 (NPO法人ウィメンズスペースふくしま代表) 菅野 瑞穂氏 (きぼうのたねカンパニー(株)代表取締役) 富田 愛氏 (NPO法人ビーンズふくしまみんなの家@ふくしま事業長) 吉田 恵子氏 (富岡町社会福祉協議会事務局次長) 〈コーディネーター〉 藍原 寛子氏 (ジャーナリスト、Japan Perspective News 株式会社代表)
30 2018	男性・子どもの生活自立支援事業	H30/7/28(土) ●食事づくりワークショップ 「お父さんといっしょに食を考えよう」 山際 博美氏 (料理研究家、ふくしま応援シェフ)
	避難地域の復興を支える女性の活躍推進事業	H30/7/7(土)、8/5(日)、26(日)、10/14(日)、11/11(日)、12/2(日) ●連続講座 〈コーディネーター〉 北村 育美氏 (福島大学経済経営学類「ふくしま未来 食・農教育プログラム」研究員) 新田 真由子氏 (ふくしま未来学(COC)推進室事務局地域コーディネーター) ●事前学習 「地域づくりに携わった学生の実践事例から～湯川村等での取組～」 岩崎 由美子氏 (福島大学行政政策学類教授) ●現地視察 吉田 晶子氏 (富岡町社会福祉協議会郡山支所) 青木 淑子氏 (NPO法人富岡町3.11を語る会代表)
	未来館フェスティバル	H30/9/1(土)、2(日) ●シンポルイベント 「働く人を幸せに～サイボウズが『100人100通り』の働き方ができるようになった理由～」 青野 慶久氏 (サイボウズ(株)代表取締役社長)
元 2019	ダイバーシティ理解促進事業	R元/6/9(土) ●講演 「多様性のある社会へ ～LGBTをキーワードに あなたや私にできること～」 矢部 文氏 (APIレインボウ・ペアレンツ)
	再生・復興女性リーダー育成事業	①R元/8/1(木)、②8/8(木) ●講座 被災者のコミュニティ形成に役立つコミュニケーションスキルアップ講座 中川 浩子氏 (臨床心理士、NPO法人フェミニストカウンセリング学会理事) ①いわき市、②男女共生センター
	未来館フェスティバル	R元/9/7(土)、8(日) ●シンポルイベント 「なりたい自分になる生き方 ～スポーツから学んだ大切なこと～」 山口 香氏 (ソウルオリンピック女子柔道銅メダリスト、筑波大学体育系教授)

※役職名等は、イベント開催当時のものですので、ご了承ください。

女性のチャレンジ応援講座「起業という道を選んだ女性たち」(オンライン講座)

起業について興味がある、または起業を考えている女性を対象に、起業の現状を学ぶ講義と、すでに活躍している起業家の方たちとのグループトークをオンラインで行いました。

※センターでは、起業を考えている女性を対象に、起業に向けた基礎的な知識や起業体験を聞く講座を実施しています。さらに起業へと進みたい方には、起業支援機関や起業アテンダント(起業相談を受けたりアドバイス等をする女性起業家)をご紹介します。

日時 令和2年11月8日(日) 13:30~16:00

場所 福島県男女共生センター 第2研修室

参加者 14名

内容 第1部 講義「女性起業の現状と成功のコツ」

講師 重巢 敦子さん

(キャリアコンサルタント、リファインアカデミー株式会社代表取締役、東北起業女性応援ネットワーク事務局)

第2部 起業家(4名)とのトーク

宮谷 理恵さん(サロン・講師業/ピラティスサロン~虹月~ 主宰)

渋谷 晴美さん(フリーランス・受託業/アトリエ ハレ代表)

千葉 清美さん(飲食・製造販売業/あだたらのちち株式会社 代表取締役)

西野 詩子さん(ハンドメイド・企画業/西野うさんぐらす商会 代表)

※コーディネーター:重巢 敦子さん



講師・コーディネーターの重巢敦子さん



起業家とのグループトークの様子

◆参加者の皆さんの声(要約)

- 今回こちらのセミナーに参加できて本当に良かったです。起業するまでのお話、人脈が大切というお話がとても勉強になりました。また参加したいです。
- 実践されていることや情報などを直接ポイントで教えていただき、とても参考になりました。どうしたら良いのかわからないという中で少し進む道が見えました。ありがとうございました。
- 特別な人だけが起業するイメージもありましたが、自分の生き方を問うことが大事で、正解もないし、いろいろ変化しても良いのだなど、選択肢が広がりました。

福祉機器展示室でものづくりワークショップ

令和2年10月より、福祉機器展示室で、簡単にできる雑貨や小物などを手づくりする「ものづくりワークショップ」を開催しています。

集中して手を動かすことでリラックスでき、癒しの時間になっています。

作品は、福祉機器展示室内に展示していますので、ぜひご覧ください。

福祉機器展示室では、600点以上の福祉用具を展示しています。住宅改修や介護に関する情報もお知らせしています。



問い合わせ

福祉機器展示室
電話0243-23-8316

福島県男女共生センター女と男の未来館ホームページ
<https://www.f-miraikan.or.jp/consultation/center.html>



センター図書室のオススメ本

『被災ママに学ぶちいさな防災のアイデア40』

東日本大震災を被災したママ・イラストレーターが3.11から続けている「1日1防災」

【分類4201/ア/S】アベナオミ/著 学研プラス 2017年

この本では宮城県で被災した著者の体験談と、日常的に出来る防災のアイデアがかわいらしいイラスト付きで書かれています。震災を機に著者は防災中毒になり、必要以上に食料を購入したり、バッグの中身や自宅の部屋を物でパンパンにしたりします。しかし、それでは日常生活に支障が出ることを実感し、日々の小さな工夫の積み重ねがいざという時に役立つのではと思い立ちます。そんな著者の楽しい工夫の数々を是非ご覧ください。



『福島で酒をつくりたい 「磐城壽」復活の軌跡』

【分類2205/ウ/K】上野敏彦/著 平凡社 2020年

いわきことぶき
『磐城壽』という日本酒をご存じでしょうか。この本は、『磐城壽』などの製造をしている福島県浪江町発祥の古い歴史をもつ酒造店が、再生するまでの軌跡が記されています。東日本大震災によって、浪江町での酒造りが絶望的となった鈴木酒造店。しかし、鈴木酒造店の酒を愛している人々の声や協力を受け、震災から8ヶ月後には酒造りを再開します。家族一丸となって、真摯に酒と向き合い、故郷へ帰る日を目指す姿に力をもらえる一冊です。



問い合わせ

福島県男女共生センター図書室
電話:0243-23-8308

開館時間

9時~20時
(休館日前日は17時、休館日は月曜日)



センター利用案内

研修室・宿泊室

☎0243-23-8301(代表)

開館時間：9時～21時(休館日前日は、17時)

休館日：月曜日(この日が祝日の場合はその直後の平日)、年末年始(12/29～1/3)

※その他臨時休館することがあります。

リーズナブルな料金で、どなたでもご利用いただけます。

各研修室(25名程度) 1,000円～ 宿泊室(1泊1名) 4,000円～

相談室

相談無料

秘密厳守

☎0243-23-8320

開室時間：9時～12時・13時～16時 [水曜日] 13時～17時・18時～20時

○一般相談 ○法律相談 第3水曜日 ○女性のためのカウンセリング 第1・3金曜日

○男性相談員による相談(電話のみ)火曜日 17時～20時 ※事前予約が必要な相談があります。詳しくは上記☎まで。

図書室

☎0243-23-8308

開室時間：9時～20時 [休館日前日] 9時～17時

約4万冊を蔵書。毎月テーマを変え、おすすめの本を紹介。児童書や大型絵本もあります。

福祉機器展示室

☎0243-23-8316

開室時間：9時～12時・13時～17時

約600点以上の福祉用具を「見て 触れて 体験できる」県内最大規模の展示室。福祉用具や住宅改修に関するご相談もお受けしています。

お知らせ



令和3年1月21日(木)より各研修室、図書室で公衆無線LAN(Wi-Fi)の提供を始めました。ぜひ、ご利用ください。

チャレンジ&内職相談

相談無料

秘密厳守

再就職・キャリアアップ・起業等の相談や、内職の斡旋、事業所からの内職求人等の受付等を行っています。相談は、各相談コーナーにお電話ください。 ※祝日はお休みです。

●二本松相談コーナー(県北、相双地区担当)

☎0243-23-8307

相談日・時間：火～金・9～12時、13～16時

●郡山相談コーナー(県中、県南地区担当)

☎024-927-4030

相談日・時間：月～木・9～12時、13～16時

●いわき相談コーナー(いわき地区、双葉郡担当)

☎0246-22-6400

相談日・時間：月～木・9～12時、13～16時

●会津相談コーナー(会津、南会津地区担当)

☎0242-29-5588

相談日・時間：月～木・9～12時、13～16時

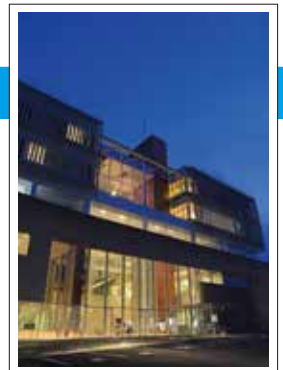
77/78 合併号表紙写真

センター北側の駐車場から撮影した写真です。

日没時刻より20分後から40分後くらいまで空が青色に染まる時間帯があり、これを写真用語でブルーアワーと言います。

この日は午後5時ちょうどが日没時刻。空が青く写り出したのが、午後5時20分頃。そして、ピークの青い空は午後5時30分頃でした。

室内と空の明るさのバランスをカメラのモニターで確認し、沢山シャッターを切ります。空が暗くなるにつれてスローシャッターになりますので、三脚があればベストです!(柳田カメラマン談)



福島県男女共生センター広報誌

未来館
NEWS

Public relations magazine
MIRAIKAN NEWS

2021
SPRING
77/78
合併号

当センターに対するご意見・ご質問等がありましたら、下記までお問い合わせください。

(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構

福島県男女共生センター(女と男の未来館)

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1

TEL:0243-23-8301(代) FAX:0243-23-8312

<https://www.f-miraikan.or.jp>



公式 Facebook

未来館
+20

2021.1.18
おかげさまで20年。
自分らしくを これからも